

令和7年度 病虫害防除情報

令和7年8月6日
発表：福島県病虫害防除所

**ハダニ類の発生が多い状況です。
まん延する前に防除を徹底しましょう。**

- 1 対象作物：野菜類、花き類
- 2 害虫名：ハダニ類
- 3 対象地域：全域

【発生状況】

- (1) 7月中下旬のキクの巡回調査において、ハダニ類の発生ほ場割合は54.5%（平年33.1%）と、平年よりやや高い状況でした（図1）。
- (2) 8月上旬のアスパラガスの巡回調査において、ハダニ類の発生ほ場割合は60%（例年0%）と、例年より高い状況でした（図2）。※ 例年は、2023年、2024年8月データの平均値
- (3) 仙台管区气象台が7月31日に発表した1ヶ月予報では、期間の前半は気温がかなり高くなり、平年と同様に晴れの日が多くなると予測されています。ハダニ類は高温乾燥を好むため、発生に好適な条件が続き、発生量が多くなる可能性があります。

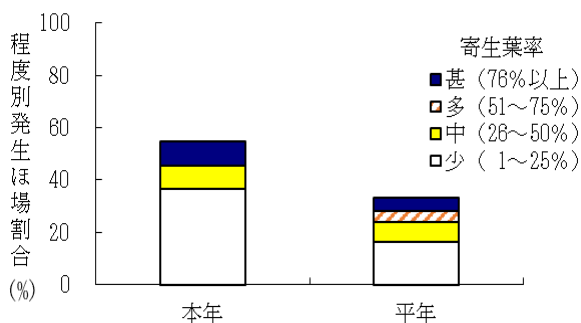


図1 キクほ場におけるハダニ類の発生状況
※県内11ほ場を調査
※本年は7月11日～17日に調査

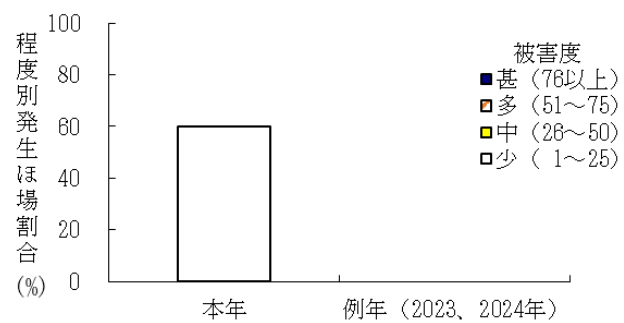


図2 ハダニ類によるアスパラガス若茎の被害状況
※県内5ほ場（会津地域）を調査
※本年は8月1日に調査

【発生生態と被害】

- (1) 野菜類及び花き類に大きな被害を与えるハダニ類は、ナミハダニ（写真1）とカンザワハダニ（写真2）が主体です。両種とも、20～30℃で活発に活動し、25℃では約10日間で卵から成虫になります。
- (2) ハダニ類は葉裏に寄生することが多く、葉面からの吸汁により被害が生じます。吸汁加害を受けた葉の表側には、白っぽいかすり状の被害痕が見られます（写真3）。
- (3) 寄生数が多くなると葉全体が生気を失うとともに、ハダニ類の吐糸によりクモの巣で覆われたようになって萎縮し（写真4）、枯死することもあります。

【防除対策】

(1) 耕種的防除

- ア 株が混んでいると薬剤がハダニ類の寄生部位に到達しないため、薬剤散布前に摘葉等を行いましょ。摘葉した葉をほ場内に放置すると、周辺株へハダニ類が移動するため、速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分してください。

イ ほ場外からハダニ類が侵入してきた場合、通常はほ場外周に位置する株の下位葉から食害痕が生じるので、これらの株を定期的に確認してください。

(2) 化学的防除

ア 多発すると防除が困難なため、葉で白いかすり状の小斑点を見つけたら（写真3）、速やかに薬剤散布しましょう。

イ ハダニ類は葉の裏に多く寄生するため、薬剤散布の際は葉裏まで十分にかかるよう散布してください。

ウ 既に多発しているほ場では、1回の薬剤散布のみでは散布むら等で効果が不十分となる場合があるため、表1などを参考に、複数回散布しましょう。

エ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、薬剤感受性低下の恐れのない気門封鎖系薬剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行いましょう（参考：表1）。

オ ハダニ類を本ほへ持ち込まないようにするため、いちごは定植前までの防除を徹底しましょう。



写真1 ナミハダニ成虫(黄緑色、体長約0.5mm)



写真2 カンザワハダニ成虫(赤色、体長約0.5mm)



写真3 ハダニ類による葉表側のかすり症状
(きゅうり)



写真4 多発したハダニ類の吐糸によりクモの巣状となっていたいちごの葉

表1 ハダニ類に使用可能な農薬の例（主に令和7年度農作物病害虫防除指針から抜粋）

作物名	薬剤名	希釈倍率	本剤の使用回数	使用時期	IRACコード
きく	アグリメック* ₁	500 倍	5 回以内	発生初期	6
	コロマイト水和剤	2000 倍	2 回以内	発生初期	6
	バロックフロアブル* ₁	2000 倍	1 回	発生初期	10B
	カネマイトフロアブル	1000～1500 倍	1 回	—	20B
	ダニコングフロアブル* ₁	2000 倍	1 回	発生初期	25B
	フーモン* ₂	1000 倍	—	収穫前日まで	—
きゅうり	コロマイト水和剤	2000 倍	2 回以内	収穫前日まで	6
	バロックフロアブル	2000 倍	1 回	収穫前日まで	10B
	カネマイトフロアブル	1000～1500 倍	1 回	収穫前日まで	20B
	マイトコーネフロアブル	1000 倍	1 回	収穫前日まで	20D
	グレーシア乳剤	2000 倍	2 回以内	収穫前日まで	30
いちご	アグリメック	500～1000 倍	2 回以内	育苗期	6
花き類	粘着くん液剤* ₂	100 倍	—	発生初期	—
	エコピタ液剤* ₂	100 倍	—	発生初期	—
野菜類	粘着くん液剤* ₂	100 倍	—	収穫前日まで	—
	フーモン* ₂	1000 倍	—	収穫前日まで	—

*₁ 花き類での登録、*₂ 気門封鎖系薬剤

※「アグリメック」は、いちごの定植期以降の本ぽでは使用できませんので、注意しましょう。

※上記の農薬は令和7年7月29日現在における登録内容です。

※薬剤散布に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し散布してください

（農林水産省「農薬登録情報システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>）。

- ◆ 福島県では6月10日から9月10日まで令和7年度福島県農薬危害防止運動を実施しています。
- ◆ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読んで正しく使用しましょう。

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727